

# 女性が活躍できるまちに

いま、女性や若者の活躍が、私たちのまちだけでなく日本全体を元気にし、経済を活性化させると期待されています。女性が活躍できるということは、ひいては男性にとっても活躍しやすい環境につながります。女性の就業を通して、性別にかかわらず、誰もが自分の個性や能力を活かせるまちづくりについて考えてみましょう。

## 知っていますか？「M字カーブ問題」

日本の女性の労働力率は、グラフに見られるように、結婚や出産期にあたる30歳代で一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇する「M字カーブ」を描いています。

最近になるほどM字カーブは浅くなり、M字の底となる年齢階級も上昇してきています。なお、欧米ではM字カーブは既に見られません。

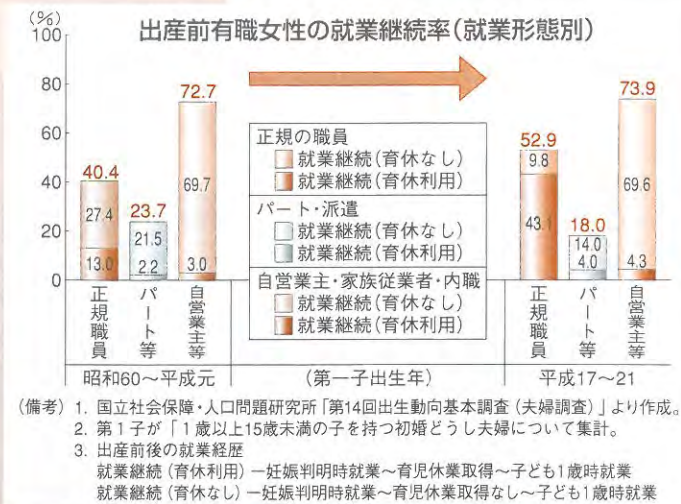
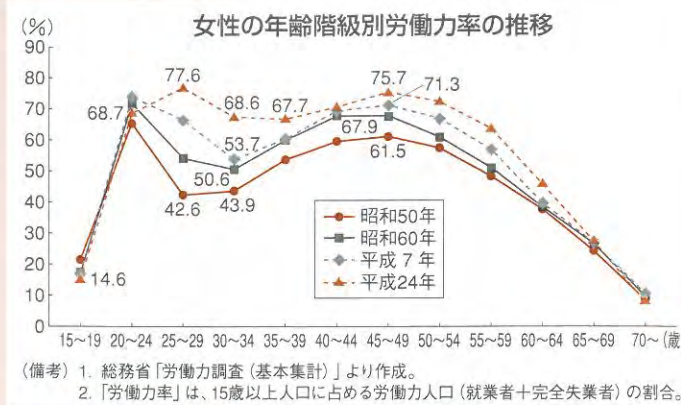
また、グラフの出産前有職女性の就業継続率をみると、昭和60年代と比較して平成17年～21年は、正規職員においては育休利用による就業継続率が大幅に上昇していますが、パート等では逆に継続率が低下しています。

このように、全般的に女性の就業率は上昇してきていますが、女性の非労働力人口のうち、25歳から49歳までを中心に303万人がなお就業を希望しています。この人数は非常に大きな潜在力であり、その人材活用が期待されています。

丸亀市においても、就職・再就職支援のため、就業説明会や技術訓練などの情報提供を行っています。

詳しくは、市のホームページ「産業・企業・商工」をご覧ください。

\* (15歳以上人口に占める労働力人口〔就業者+完全失業者〕の割合)



## 性別役割分担意識と女性の就業との関わり

既婚女性が職業を持つかどうかを決めるにあたっては、経済的理由のほかに、「夫は外で働き、妻は家を守るべきである」という性別役割分担意識が影響を与えていると考えられています。

下表の平成4年と24年の調査を比較すると、男女とも若い世代ほど概ね性別役割分担に賛成の割合

が低くなっています。賛成の割合が男女ともに前回調査より増えたのは、昭和54年の調査開始以来、今回が初めてのことで。

また、性別役割分担に反対であると考えられる傾向は男性よりも女性に強く見られます。

性別役割分担意識に関する世代による特徴：賛成の割合

調査年	女性 (%)					男性 (%)				
	60~69歳	50~59歳	40~49歳	30~39歳	20~29歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳
平成4年調査	70.2									75.0
平成14年調査	50.8	54.3								53.7
平成24年調査	52.3	40.6	53.9					59.8	47.4	55.9
		40.4	37.5	46.8			66.5	51.8	47.2	
			41.0	32.9	48.0	52.3	41.4	50.9		
				41.6	33.2	44.3	52.2			
				43.7		55.7				

(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成4年、14年、24年)より作成。  
2. 「賛成」及び「どちらかといえば賛成」の割合の合計値。

## 女性のライフ・ステージに合わせた支援とは...

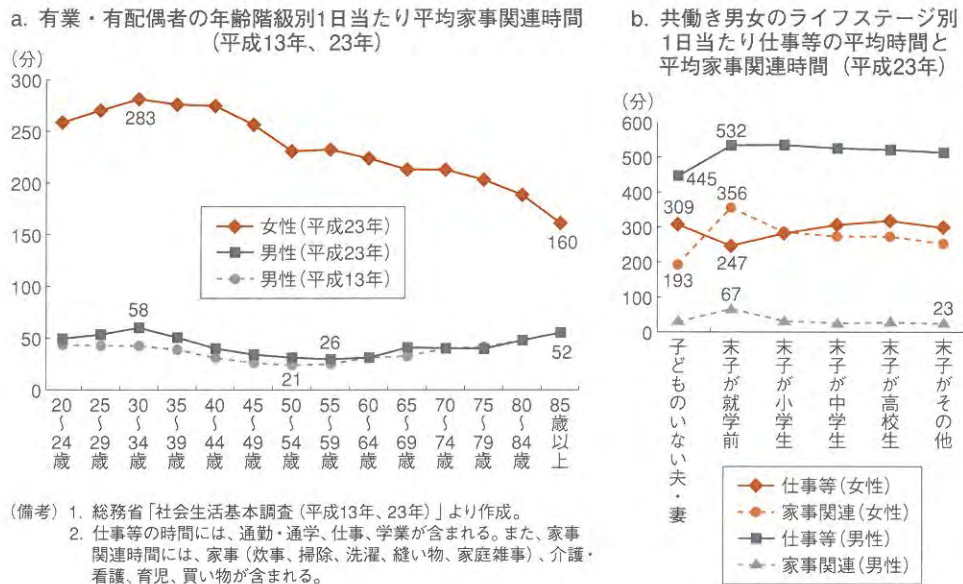
女性が安心して働ける環境とは、仕事と子育て・介護などとの二者択一を迫られることなく働き続けられる状態です。そうならば「M字カーブ問題」の解消につながるだけでなく、仕事に必要な知識やスキルの向上、キャリアの形成を図ることが可能となってきます。

女性が結婚や出産・子育てを理由に離職する主な理由には、職場の両立支援制度の不十分さや長時間労働とともに、家族の協力が得られないことなどが挙げられています。

そこで、育児休業制度や短時間勤務制度の推進といった職場環境の整備・改善だけでなく、男性も含めた働き方の見直しや意識改革により、男性の家事・育児への参画を促進することが重要となってきます。

こうした「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」を推進することが、女性の活躍する場を広げ、少子高齢化・生産年齢人口の減少による経済的影響を緩和し、元気な明るい社会をつくっていくこととなるのです。

有業・有配偶者の1日あたり平均家事関連時間(男女別)



全国的な保育ニーズのピークは平成29年といわれています。そこで丸亀市では、男女が共に仕事と子育て・生活を両立できる子ども・子育て施策を総合的に推進するため、平成26年度から幼稚園や保育所・児童福祉等を担当する「子ども未来部」を新設する予定です。

## 日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん 10/11・12 丸亀市男女共同参画審議会委員 日高幸子

今回参加した日本女性会議は、昭和59年第1回名古屋市から始まり、今年で30回を迎えた。

私も過去、第9回長野市に参加した経験があるが、今年は徳島県の決して交通の便がいいとはいえない、人口約8万人の阿南市で開催された。過去の開催地をみても、主に人口の多い都市を中心に開催されてきたように思う。

大会では、「我が市で開催したい」という関係者の「熱い思い」と「強い信念」が多く、市民に伝わり、地域で又その住民たちの日常の中でできることから一つずつ、家族や友人、隣人たちをその渦の中に巻き込みながら実現できたことが報告された。

又、私が参加した「まちづくり」分科会では、若者たちが「地域の中でスケートボードがしたい」という思いを形にするまでに、まずパートナー(配偶者)のいる家庭を巻き込み、住民とのコミュニケーションの必要性に

気づき、清掃という社会活動を通して理解を求め実現できたことが発表された。「男女共同参画」の視点は少し見えにくい部分はあったが、その実現過程はとても感動的であった。

過去には、「男女共同参画」のイメージは、少し学問的で都市的な観点や課題であることが多く、少しわかりにくかったり、難しかったりといった声をよく耳にした記憶がある。

約20年の時を重ね、これまでの歩み(努力)をベースに、今回のテーマである「小さなまちから新たなステージ」は、まさに次のステージへのプロローグであり、大変意味のある節目の会であったと思う。

私も身近な生活の中で、常にその視点をもちながら、できることから実践し続けなければならないと再認識できた有意義な時間であった。

参加できたことに感謝!



## 次回 日本女性会議2014札幌 テーマ『未来の景色は、私たちが変える』 平成26年10月17日(金)~18日(土) 札幌コンベンションセンター